

# Pixuspaint Users' Manual

**INDUSTRIAL GRAPHIC SYSTEM**

## VQエディットモジュール



**STUDIO BULLTERRIER**  
Computer Graphics Software



# VQエディットモジュールの目次

## 5.1 VQエディットモジュールについて

---

## 5.2 VQエディットモジュールのツール

---

- 5.2.1 手のひら
- 5.2.2 むしめがね
- 5.2.3 スポイト
- 5.2.4 矩形選択
- 5.2.5 ペン
- 5.2.6 パケツ

## 5.3 VQエディットモジュールのウインドウ

---

- 5.3.1 VQ VIEWウインドウ
- 5.3.2 VQパレットウインドウ

## 5.4 フラッシュカラーとチェックカラー

---

- 5.4.1 フラッシュカラー
- 5.4.2 チェックカラー



## 5.1 VQエディットモジュールについて

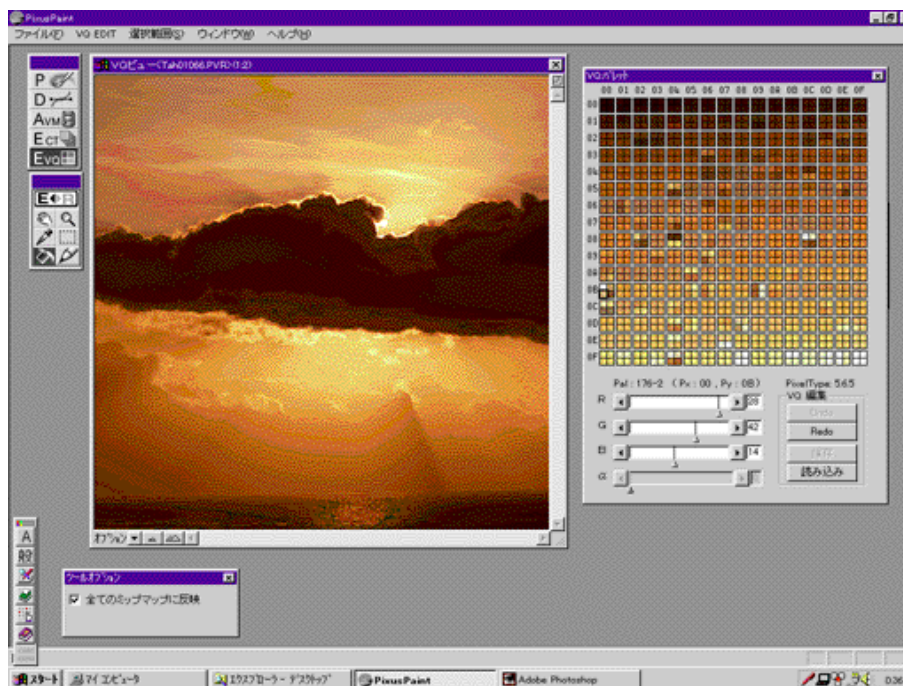
VQコードエディットモジュールは、PVR形式（VQ圧縮）で保存された画像を読み込み、編集を行うことが可能です。従来、VQ圧縮をかけたPVRの画像は一度保存をしてしまうと、画像に修正を加えることができませんでしたが、PIXUSPAINTではVQ圧縮ファイルのコードブックの色調整を可能にし、さらに、2×2ドットの太さのペンツールで新たに描き込みを行えるようにしました。MIPMAPをONでPVR保存した画像については、ツールオプションで画像の加工を反映させるか否かを設定できます。反映させる場合ウインドウのプルダウンリストで切り替え、画像の色変更をリアルタイムに確認することも可能です。

### 注 意

- ・VQコードエディットモジュールは、通所のモジュールと異なりモジュール独自のウインドウ内に画像を表示しています。このモジュール内で、画像を開く、または保存するのはVQパレットウインドウの“読み込み”、“保存”からのみとなり、ペイントモジュールやドラフトモジュール、VMアニメモジュールとの互換はありません。
- ・undo/redoも通常のメニューからのもの、キーボードショートカットからのものは受け付けません。すべてVQパレットウインドウ内のundo/redoボタンで行う必要があります。（5.3.2項参照）
- ・VQコードエディットモジュール内でキーボードショートカットでundo/redo（ctrl+z/y）を行った場合、VQコードエディットモジュール内で行ったカラー編集ではなく、他のモジュールで開いている通常のウインドウのundo/redoが行われます。

VQエディットモジュールの画面は『図：VQエディットモジュールの画面構成』のように表示されます。

画面表示例



図：VQエディットモジュールの画面構成



## 5.2 VQエディットモジュールのツール

VQエディットモジュールのツールは『図：VQエディットモジュールのツール』の用に表示されます。



図：VQエディットモジュールのツール



手のひら



虫眼鏡



スポイト



矩形選択



パケツ



ペン

### 5.2.1

#### 手のひら



画像のスクロールを行います

### 5.2.2

#### むしめがね



そのまま画像のズームイン、Altキーを押しながらズームアウトを行います。

### 5.2.3

#### スポイト



画像内のカラーを選択します。

### 5.2.4

#### 矩形選択



画像を範囲選択します。



## 5.2.5

### ペン



VQパレットから選択したカラーで2×2ドットの太さの線を描画します。(図：ペンの描画例)



図：ペンの描画例

## 5.2.6

### バケツ

選択した範囲をVQパレットから選択したカラーで塗りつぶします。(図：バケツの描画例)



図：バケツの描画例



## 5.3 VQエディットモジュールのウィンドウ

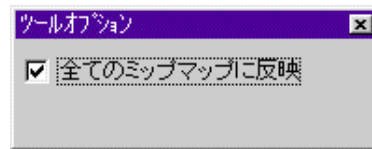
### 5.3.1

#### VQ ビューウィンドウ

VQ圧縮された画像を確認する為のウィンドウです。ペン、パケツツールで画像の加工ができます。ウィンドウ下部のプルダウンから画像表示倍率、MIPMAPの切替えが可能ですので、VQパレットで編集したカラーの確認などに、大変便利です。ペン、パケツツールでの編集は、『図：ツールオプション』の“MIPMAPに反映する”にチェックしてあれば、すべてのMIPMAPに編集を反映させる事ができます。



図：VQビューウィンドウ

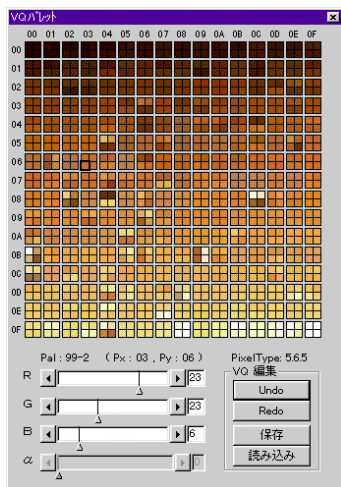


図：ツールオプション

### 5.3.2

#### VQパレットウィンドウ

VQコードブックを表示したパレットです。カーソルで選択したカラーをパレット内のカラーバーで色の編集が行えます。カラーバーで編集されたカラーはVQVIEW、およびすべてのMIPMAPにリアルタイムで反映されます。VQビューウィンドウ、VQコードブックのカラーの編集に対するundo、redoは全てこのウィンドウから行います。(undo、redoの制限は10回となっています。)



図：VQパレットウィンドウ



## 5.4 フラッシュカラーとチェックカラー

VQエディットモジュールではフラッシュカラーとチェックカラーを行う事が可能です。  
操作はそれぞれ次の通りです。

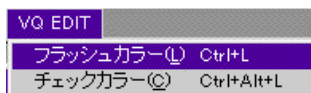
### 5.4.1

#### フラッシュカラー

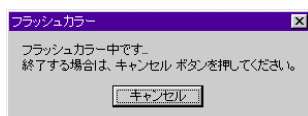
画像内のカラーをVQレットまたはVQVEIW画像から選び、フラッシュさせる事で選択色の使用範囲、カラーナンバーを視覚的に確認する事ができます。



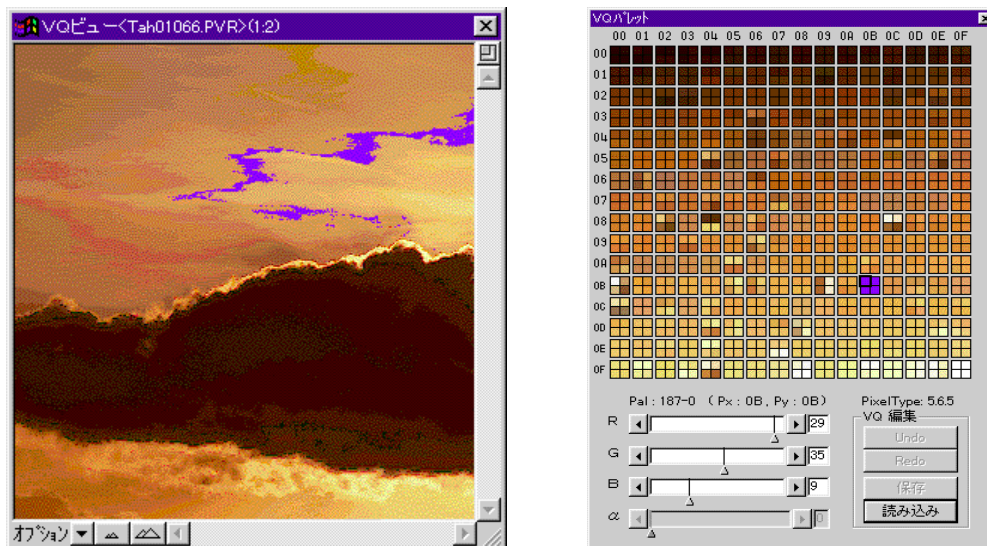
スポイトツールで画像からチェックしたい箇所のカラーを選択します。または、VQパレットからチェックしたいカラーを選びます。



メニューバーのVQエディットから“フラッシュカラー”を選択します。



『図：フラッシュカラーダイアログ』が開き、で選択したカラーがVQビューウィンドウと、VQパレットウィンドウの双方でRGBフラッシュし、使用されている箇所が確認できます。(図：フラッシュカラーの例)



図：フラッシュカラーの例

フラッシュカラーダイアログのキャンセルボタンを押すとフラッシュカラーが終了し、画像が元のカラーで表示されます。



## 5.4.2

### チェックカラー

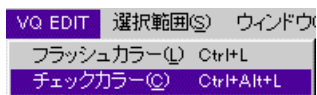
画像に使用されているカラーのみをパレットに表示し、使用されていないカラーはグレイアウトします。



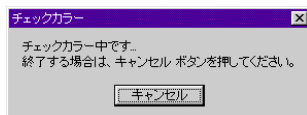
チェックカラーを行いたいIM I P M A Pを選びます。

チェックカラーを行いたい領域を矩形選択ツールで選択します。

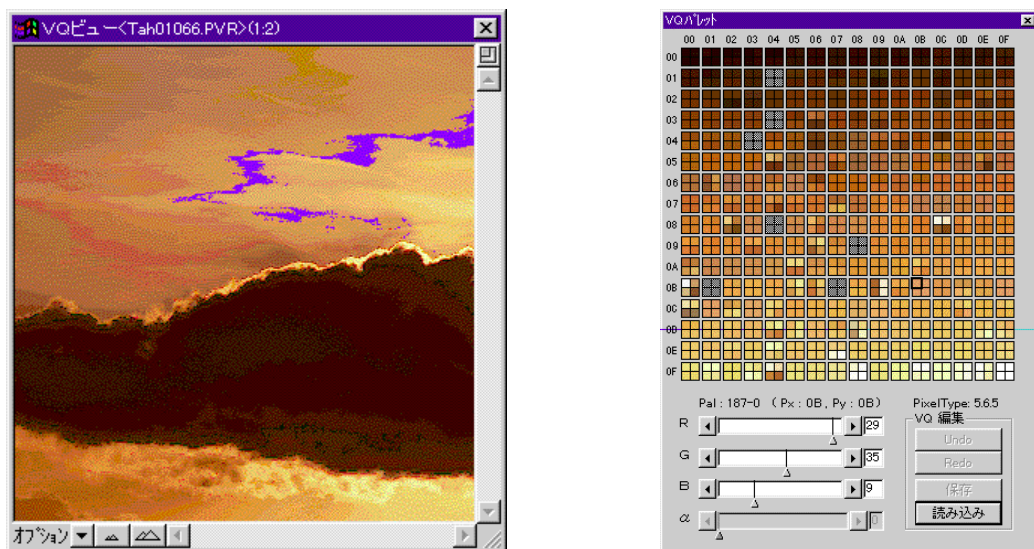
選択領域が指定されていない場合は、画像全体に対してチェックカラーを行います。



メニューバーのVQエディットから“チェックカラー”を選択します。



『図：チェックカラーダイアログ』が開き、 で選択した画像内で使用されていないカラーがグレイアウトし、使用されているカラーナンバーが確認できます。( 図：チェックカラーの例 )



図：チェックカラーの例

チェックカラーダイアログのキャンセルボタンを押すとチェックカラーが終了し、パレットが元のカラーで表示されます。